

質改道路の大林  
舗装グースアスファルト

# 施工実績1.8万<sup>2</sup>m超える

## 橋梁の修繕更新に照準



大林道路は、橋梁の鋼床版舗装向けに開発した高耐久の改質グースアスファルト混合物の施工実績を着実に積み上

げている。3日に開通した九島大橋舗装工事（愛媛県宇和島市、施工面積3380平方<sup>2</sup>m）を加え、施工実績は1万8000平方<sup>2</sup>mを超えた。従来品に比べて耐流動性を約2倍に高め、曲げ疲労抵抗性にも優れる。調達しやすい材料を使って製造できるため、施工数量の増減などにも柔軟に対応できる。今後は既存の舗装を効率的にはぎ取る「IH式舗装撤去工法」と合わせて、増加が見込まれる橋梁の修繕・更新工事をターゲットに営業を強化する。

開発した改質グースアスフ

ルト混合物は、調達が比較的困難なストリートアスファルト20/40やトリニダッドレイクアスファルト（TLA、特殊天然アスファルト）ではなく、入手しやすい改質アスファルト、特殊添加剤を使用して耐久性を向上させた。従来製品に比べて、防水性は同等、たわみ追従性は同等以上の性能を発揮する。

TLAを使った場合に比べ、低臭気での施工ができるため、周辺環境への負荷も低減す

る。また、TLAを小割にするなど煩雑な作業が不要になるため、製造にかかる時間も短縮できるといった利点もある。従来のグースアスファルト舗装と同様の体制で施工でき、「硬質アスファルト」を使わないため、従来品に比べて20度低い220度で流動性が得られ、加熱するための燃料も削減することができる。